

継続して発展する子どもの遊び（園長つぶやき）

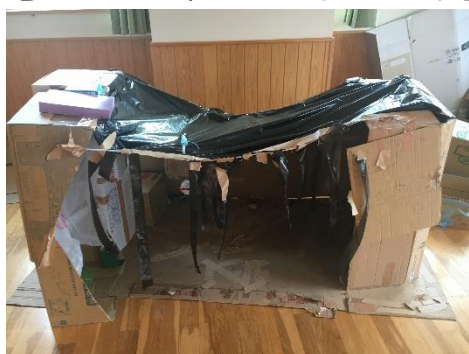
まだまだ暑い日が続いていますが、心なしか涼しく感じたり、日の沈む時間の速さを感じたり、ちょっとずつではありますが、秋の気配を感じるようになってきました。

さて、今回は年長クラスの子どもたちの話しです。8月の始めに段ボールを使って、テーブルや家を子どもたちなりに手作りし、



それはそれは、大切に遊んでいました。しかも、この日だけで終わるのではなく、ずっとそこにあり、子どもたちがいつでも遊べる環境を、先生方が用意してくれていたもので、遊びは継続できる状況でした（すごく大切なことです）。園に届く小包を見るたびに「先生、その段ボール使っていない??」と聞いてくる子どももいるほどです。

そして現在は、最初の遊びの内容から路線が変更され“お化け屋敷”に変化しています。スタートした時には、きっとこれがお化け屋敷になるとは、保育者はもちろんですが、子ども達もきっと想像していたものではないと思います。それでも約1カ月続いているこの段ボールの遊びは、子どもたちの力で、ここまでの発展を見せてくれました。



ある園の話で「4月に読んだ絵本の話しが面白く、その絵本をテーマにした遊びがほぼ1年間続いた」ということを聞いたことがあります。子どもたちが“やってみたい”と感じ、興味関心を持つことが発展性や継続性に大きく関係するとわかる話しですね。今回の年長クラスの遊びも、同じような状況が見て取れるように感じます。つつい「新しいコト・違うコト」を毎日しないといけないような気になりますが、大切なことは“やりたい気持ち・興味関心を持つ”ことだと改めて気づける機会でした。10の姿と照らし合わせると、ここでは書ききれないほどの項目と照らし合わせることが出来るのではないのでしょうか！

(R2・9・2)